

自閉症児のプロフィール観察シート（解説）

I. 対象児の教室内での様子を簡単に書く

高機能自閉症児¹は同じ基本的な困難をもっていますが、表れ方はみなそれぞれ違っています。教育的支援をどこから始め、どのように進めていくか決めるために、様々な観点から対象児の様子を簡単に書きます。

- 〔例〕
- 奇妙で変わったところがある。
 - 何をするか予測がつかない。
 - 困っている様子はよく伺えるが、なぜ困っているのかは分かりにくい。
 - やや孤立きみ。

II. 観察する行動

すべての自閉症児が、すべての項目について同レベルの問題を持っているわけではありません。

（評価基準：1. 全く問題ない、2. ほとんど問題ない、3. 少し問題がある、4. かなり問題である、5. 非常に問題がある）

〔例〕

1. 社会的な相互関係	1	2	3	4	5
a) 一対一の状況で、適切な身振り、姿勢、表情やアイコンタクトができています。			○		
b) 集団活動をしている時に、適切な身振り、姿勢、表情やアイコンタクトができています。					○
c) 大人との一対一の関係で、ソーシャルキューを読み取ることができる。				○	
d) 子どもとの一対一の関係で、ソーシャルキューを読み取ることができる。				○	

この例では、児童は集団活動時の非言語的なコミュニケーションには非常に問題がありますが、一対一でなら少し問題がある程度です。とはいえ、この児童のソーシャルキューを読み取るには、かなりの問題があります。まず、非常に問題がある部分を最優先にします。プロフィールの偏りを知ることは、支援方針を決めることにもなります。

III. 評価

観察結果に基づいた支援計画を立てるために、カラー評価を行います。こうすれば、最も問題のある領域が一目でわかります。その結果から、優先すべき課題を三つ書き出します。

IV. 改善すべき行動

ここでは、自閉症療育の知識に基づいて、対象児の抱えている困難の原因を探ります。

〔例〕

IV. 対象となる課題	考えられる原因
○ この児童は、一対一で対面していても、めったに人の目を見ない。	○ 非言語的なコミュニケーションに困難がある。
○ 話すことと見ることを同時にできない。	○ ソーシャルスキルが不足している。

V. 支援プラン

この段階では、親と教師の双方から意見を出し合った方が良いでしょう。こうして、支援プランが決められます。

〔例〕

V. 支援プラン	
目 標	方 法
○ 順序だてて三つの行事を説明する。	1. 行事に参加している対象児の写真を撮る。 2. その写真を行事ごとに三つに分ける。 3. 児童に、自分のしたことを思い出させて、順番通りに並べるように指示する。 4. その写真を使って、何をしたか説明させる。

VI. 支援全体の査定

一連の流れをもって、一区切りとします。今回の教育的介入によってどの程度の変化が見られたか調べるために、対象児の再評価を行います。

¹ 原文ではアスペルガー症候群となっているが、高機能自閉症に統一した。

自閉症児のプロフィール観察シート

チェックを始める前に

高機能自閉症のために児童が困難に直面しているのだと分かったら、その児童への理解を深めることができる。始めは、困難ばかりが目立って、途方に暮れてしまうかもしれない。児童を理解し、支援していくためには、どこから取りかかればいいのか知らなければならぬだろう。ある教師は、「この子の手助けをするために、この子のことが知りたいのです。」と語った。

ハンス・アスペルガーは、高機能自閉症の子どもたちをのことを、こう述べている。「手がかかるけれど魅力的な子どもたちである」と。

I. 対象児の教室内での様子を簡単に書く。 (困っていることだけでなく良い面も書くこと。)

II. 観察する行動					
評価：	1. 全く問題ない。 2. ほとんど問題ない。 3. 少し問題がある。 4. かなり問題である。 5. 非常に問題がある。				
1. 社会的な相互関係	1	2	3	4	5
a) 一対一の状況で、適切な身振り、姿勢、表情やアイコンタクトができています。					
b) 集団活動をしている時に、適切な身振り、姿勢、表情やアイコンタクトができています。					
c) 大人との一対一の関係で、ソーシャルキューを読み取ることができる。					
d) 子どもとの一対一の関係で、ソーシャルキューを読み取ることができる。					
e) 集団活動をしている時に、ソーシャルキューを読み取ることができる。					
f) 他の子どもと一緒に活動できる。					
g) 大人と一緒に活動できる。					
h) 同年齢の子どもと、友人関係を築くことができる。					
i) うまいいかなかった時に、慰めやいたわりを求めることができる。					
j) 人を慰めたりいたわることができる。					
k) 人と楽しみや喜びを分かち合うことができる。					
l) 他の子どもの真似ができる。					
m) 大人の真似ができる。					
n) 状況や相手に応じた、さまざまな態度がとれる。					
o) 表彰された時に、適切な態度がとれる。					
p) 批難された時に、適切な態度がとれる。					
コメント					

2. 社会的なコミュニケーション	1	2	3	4	5
a) 名前を呼ばれた時に返事をする。					
b) 一対一で言われた指示に従える。					
c) グループ（班）に対して言われた指示に従える。					
d) クラス全体に向けて言われた指示に従える。					
e) 人と会話する時、交互に話すことができる。					
f) 会話を始めることができる。					
g) 会話の途中で話題を変えることができる。					
h) 適切に会話を続けることができる。					
i) 相手が何を聞こうとしているのか気づいている様子がうかがえる。					
j) 人の話を聞いている時に、うなずいたり相槌が打てる。					
k) 相手に合わせて話題や話し方を変えられる。					
l) 声の大きさやトーンを変えられる。					
m) 顔をしかめるなどのサインを見逃さず、応じることができる。					
n) 言外の意味を理解できる。					
o) 実際に起きていないことを想像して話したり書いたりできる。					
p) 出来事を順序だてて説明できる。					
q) 命じられたことについて、簡潔に結果を報告できる。					
コメント					
3. 社会的な想像力と思考の柔軟性	1	2	3	4	5
a) いろいろなものに興味を持つことができる。					
b) 人と興味を分かち合うことができる。					
c) 状況の推移に従って、振る舞いを変えていくことができる。					
d) ルール・日課・順序の変更に応じられる。					
e) 想像力を働かせた一人遊び*ができる。					
f) 人と一緒に、想像力を働かせた遊び（ごっこ遊びなど）ができる。					
g) 人の意見を聞くことができる。					
h) 学んだことを他に応用できる。					
i) 習得した技能を、教科の枠を越えて使える。					
j) 行事や仕事の計画が立てられる。					
k) いろんな行事に、実現可能な考えを提案できる。					
l) 推論や推測ができる。					
コメント					

* 表面的な動作の真似や反復、記憶の再現ではなく、何かになったつもりで自分なりに考えて（想像して）進めていく遊び。

4. 運動能力と遂行能力	1	2	3	4	5
a) 教室まで迷わずに行ける。					
b) 学校まで迷わずに行ける。					
c) おとなしく着席してられる。					
d) 小集団で行動する時に、着席してられる。					
e) 大集団で行う集会などの活動の時に、着席してられる。					
f) 課題に必要な道具を出し、支度できる。					
g) 正確で丁寧な字を書くことができる。					
h) 体育の時間などに、人の助けを借りずに着替えができる。					
i) 体育やゲームの時、自分がどのように動いたら良いか分かっている。					
コメント					
不安・ストレス・フラストレーションを感じているとみられる状況を記入。 (例えば、体育館での体育、移動の時間、集団の中で座っていること、など。)					
Ⅲ. 次のページの評価表の結果から、優先すべき課題を三つ記入。					
1.					
2.					
3.					

Ⅲ. 評価表

カラ－評価：1－青 2－緑 3－黄 4－オレンジ 5－赤				
社会的な相互関係		社会的な想像力と思考の柔軟性		
1. 社会的な相互関係		4. 運動能力と遂行能力		
a) 一対一の状況での身振りなどの使用。	a) 名前を呼ばれた時に返事をする。	a) いろいろなものに興味を持てる。	a) 教室まで迷わずに行ける。	
b) 集団活動時の、身振りなどの使用。	b) 指示に従える。(一対一)	b) 人と興味が分かち合える。	b) 学校まで迷わずに行ける。	
c) 一対一の関係で、ソーシャルキューに従える。(大人に対して)	c) 指示に従える。(グループ)	c) 経過とともに振る舞いを変えられる。	c) おとなしく着席していただける。	
d) 一対一の関係で、ソーシャルキューに従える。(子どもに対して)	d) 指示に従える。(クラス全体)	d) 日課などの変更に応じられる。	d) 小集団行動の時に、着席していただける。	
e) 集団活動時に、ソーシャルキューに従える。	e) 人と交互に話せる。	e) 想像力を働かせた一人遊びができる。	e) 大集団活動の時に、着席していただける。	
f) 他の子どもと一緒に活動できる。	f) 会話を始められる。	f) 想像力を働かせた遊びを、人と一緒にできる。	f) 必要な道具を出し、支度ができる。	
g) 大人と一緒に活動できる。	g) 会話の途中で話題を変えられる。	g) 人の意見を聞ける。	g) 正確で丁寧な字を書くことができる。	
h) 友人関係を築くことができる。	h) 会話を続けられる。	h) 学んだことを他に応用できる。	h) 助けを借りずに着替えることができる。	
i) 慰めやいたわりを求めることができる。	i) 相手が何を聞こうとしているのが気づいているようだ。	i) 習った技能を、他の教科でも使える。	i) 体育の時間に、活動に参加できる。	
j) 人を慰めたりいたわりたわめることができる。	j) うなずいたり相槌が打てる。	j) 行事や仕事の計画が立てられる。		
k) 楽しみを分かち合うことができる。	k) 相手に合わせて話題や話し方を変えられる。	k) 実現可能な考えを提案できる。		
l) 他の子どもとの真似ができる。	l) 声の大きさやトーンを変えられる。	l) 推論や推測ができる。		
m) 大人の真似ができる。	m) 日言語的なサインに応じることができる。			
n) 状況や相手に応じて、さまざまな態度がとれる。	n) 言外の意味を理解できる。			
o) 表彰された時に、適切な態度がとれる。	o) 想像して話したり書いたりできる。			
p) 叱責された時に、適切な態度がとれる。	p) 出来事を順序だてて説明できる。			
	q) 命じられたの結果を報告できる。			

IV. 対象となる課題	考えられる原因
V. 支援プラン	
目 標	方 法

出典：Cumine. et al.(1998) *Asperger Syndrome: A Practical Guide for Teachers. (Resource Materials for Teachers)* David Fulton Publishers. 70-77. 落合みどり訳。

※ この「プロフィール観察シート」は、診断のためのチェックリストではありません。対象児が、自閉症児に特徴的にみられる症状のうちで、どのような偏りを持っているかを示し、どこから教育的支援を始めたら良いかを分かりやすくする目的で作成されたものです。